

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390201071		
法人名	社会福祉法人 薫風会		
事業所名	グループホームぬくもり(1階)		
所在地	倉敷市神田2丁目4-2		
自己評価作成日	平成27年10月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosyoCd=3390201071-008&PrefCd=33&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス		
所在地	岡山市北区岩井二丁目2-18		
訪問調査日	平成27年11月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者の生活を大切に、時間や項目にとらわれなくて柔軟な対応に努めている。外に出かける機会を持つと共に、家族との関わりや外出・外泊の支援に取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は閑静な住宅街に位置し、近くには商業施設や協力病院も有り、安心して過ごせる環境になっている。建物の外観や内装は落ち着いた色合いにまとめられ、床には段差が無く利用者に配慮した作りとなっている。共有スペースの中央に配置されたキッチン、食事の用意の際、音や匂いを間近に感じられる様にと設置されたものであり工夫が感じられる。
 入所前には問題行動や不穏・便秘等で沢山の薬を必要とした利用者も、ホーム長や職員による利用者一人ひとりのその時の思いに合わせた柔軟なケアと時間の予定に縛られない対応により、信頼や安心を得て落ち着いて過ごす事が出来ている。また、2人介助を要しても極力自らの力で歩いてほしいと願う職員の日々の取り組みが、薬なしで自然排便に繋がる等、その人らしい生活を送ることが実現化している。
 ユニット間の連携が上手く取れる様、情報共有はもちろん必要に応じて職員を入れ替えている。結果、どの職員でも安心して家族に対応できる力が備わり、家族との信頼関係の構築に大きく役立っている。ホーム長は職員と隔月で面談を行い、休みの希望や勤務形態等の確認をしたり、スキルアップの機会を与えたり、個人的な相談を受けたりしながら、些細なストレスも職員にかからない様に配慮している。家庭的な雰囲気大切に、長く安心して暮らしていける事業所を目指している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を繰り返し伝え研修しているも徹底できていない。共有が難しい。	事業所のコンセプト「あたたかさ、ぬくもりを伝えよう」に沿って作成された理念を、各階のスタッフルームとエレベーター内へ掲示し、年度ごとに目標も立てている。今年の年間目標は「健康」である。普段から職員の目に付く様に工夫している。また、月に一度、理念を基に職業倫理や接遇等の研修を行い、職員全員で共有し、実践に活かしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	散歩などを通じ交流できるようにしている。交流は少ない。	町内会には入会していないが、地元の自治会長や隣近所との関係は構築できている。事業所のすぐそばにある公園で近所の園児と交流したり、折り紙のボランティアが来たり、法人保有の学校から学生が実習に訪れたりしている。地域から好意的に迎えられている。	近隣との良い関係性を築くことが出来ているので、次は、幼保・小中学校等と交流が深められることに期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	活かせていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	活かしている。会議の中で取り入れられること、改善出来ることを取り組んでいる。	2か月に1度、奇数月に開催している。当事業所を含む法人内のグループホーム3社と市職員や地域包括支援センター職員・保育園・民生委員・愛育委員・協力病院看護部長・家族など毎回多くの参加者のもと行われている。家族が来訪した時には、会議内容等を報告している。また、地域の現状や行事予定等を教えてもらったり、ノロウイルスに対する予防策について話し合ったりしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加していただいている。	相談事で電話したり、申請等で出向いている。その際、沢山の指導を仰いでいる。運営推進会議にも必ず参加している。また、市から毎月2名の相談員が来て話しをしている。地域包括も含め、福祉事務所とも密に交流している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束しないように努めている。拘束と認識できていないこともある。	マニュアルを作成し、職員全員で周知している。今年の夏、スピーチロックや施錠・虐待を含めた研修を行った。日中、居室や各フロア共、施錠はせず、外出したい利用者がいれば職員が付いて外出している。防犯の為、夜間は施錠している。また、隔週で職員には、拘束や虐待について面談している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修を行いお互いに気を付けている。言葉かけが難しくできていない。徘徊の人には特に行動の中で、きつく言いやすい状況。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	なんとなく分かることもあるが、まだまだ学びが必要。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	不安のないよう安心してもらえるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来所時には職員と家族との関わりの時間を作り、話をする場を設けている。	家族が頻繁に来訪しており、その際、意見や要望を聞くことが多い。事業所の行事に参加したい・家族会を開いて欲しいなど要望をもらっており、家族会においては、今年の11月に開催することが決まっている。利用者からは、普段の会話の中から食べに行きたい場所等の要望を聞き取り、実践している。家族来訪時にはお茶を出す等、職員は家族と近い関係を保ち、家族中心で話をするように努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	どんなことをしたいか、どんなところが改善したいか、その都度話し合っている。	ホーム長は、隔月に職員一人ひとりと面談を行い、休みの希望や勤務形態等の確認・認知症に対する対応・スキルアップ・個人的な相談まで受けている。行事についても提案を受けることが多く、先日は楽天キャンプの見学に行った。スキルアップでは法人内の病院や学校での研修に参加し、ホーム内で研修報告する等、職員が色々な経験を活かせる様に配慮している。	休憩時間をきちんと取る・時間外勤務をしない等、職員に対してストレスのかからない配慮がうかがえる。また、職員を大切にし、事業所運営する姿勢は素晴らしく、これからも是非続けてもらいたい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個別に話を聞くこともあり、言いやすい環境を作っている。みんな定時退社としている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	苦手なこと・対応など、研修を通し、また個別に指導してる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	なかなか交流は出来ていない。検討が必要。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	落ち着いた関わりの中で、ゆったり時間をかけて関係づくりに励んでいる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族との関係を大切にし、小さなことでも耳を傾けるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	みんなで問題となることをはじめサービスについて家族との相談しながら対応を決めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家と同じように、寄り添いや関係づくりに取り組んでいる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	一緒に支えるようにチームの中に入って頂けるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	様々な場面で活かすこと、また活かすための声掛けや連絡・連携を取っている。	家族や知人・友人・兄弟・孫・元担当ケアマネジャー等、頻繁に来訪している。正月には自宅へ一時帰宅する利用者が半数近くおり、大変協力的である。馴染みという点では、息子さんの営むコーヒーショップへ出掛ける利用者もいる。常々、来訪者には継続支援のために声かけしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	席を決めず自由にしてもらうことで、どの人も関わられるよう工夫している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	まだないので分からない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の想いを尊重している。	入居前のアセスメントをもとに現状と比較しながら、利用者本人の思いを把握している。共有空間の席は、その日の気分によって利用者本人に任せている。また、どの利用者に対しても、一日の流れにとられすぎず無理をしないケアに取り組んでおり、良い信頼関係を築けている。	外に出たい時にはついて行き、今入浴したくないという時は時間や日を改める等、利用者は自由に過ごしている。その時々意思を尊重することで、寄り添う姿勢が伝わり、落ち着いた日々を過ごす事に繋がっているとされる。とても素晴らしい取り組みなので、これからもこのまま無理をしない努力を続けて頂きたいと思います。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族から家での様子を教えてもらうなどすることが多い。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	現状に合わせその人の生活リズムを活かせるようにしている。時間の枠やすることを決めていない。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	作成できているが話し合いが不十分。	各担当職員が情報収集し、月1回のフロア会議で話し合っている。計画作成と管理者で原案を作成し、家族や医師の意見や要望も組み込みながらプランを作成している。モニタリングは必要に応じて毎日・1ヶ月単位で記録を取っている。また、家族にアンケートを行い、希望や要望(夜はパジャマに着替える、外を歩かせて欲しい、下肢訓練して欲しい等)を把握し、プランに盛り込んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々、その都度話し合えてよい。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	柔軟な対応ができています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	協働までできていない。地域の方とは交流するようになっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	必要時にはいつでも連携が取れる。	入居の際、かかりつけ医から事業所の協力病院に変わる利用者が多く、現在かかりつけ医に受診している利用者はほとんどいない。協力病院とは24時間体制で連携を取っており、週2回の訪問診療がある。看護師も配置しており、早めの対応に努めている。受診は、家族やホーム長、看護師が付き添い、対応している。歯科受診は入れ歯の調整で行くことはあるが現在はない。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師に相談したり、教えてもらうことも多い。早めの受診の対応を心がけ一緒に対応できる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	連絡を取りながら、状況に合わせている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	説明している。実際にはまだ取り組んだ例がない。	入居時に重度化した場合の指針を説明しており、事業所の方針に理解を得ている。現在の所、医療行為が発生すれば、ホームでは看取らない方針である。年1回、終末期の勉強を行っており、新人職員にはその都度、説明している。緊急時の対応マニュアルは用意している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	繰り返し行っているが、実践時に慌てて上手くいかないこともある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルの整備が必要。	法人全体の災害マニュアルはあるが、事業所独自のものは無い。今年、通報装置や消火器の使い方勉強したほか、避難訓練を1度行った。来年からは年2回消防署と連携して、昼夜を想定した避難訓練を予定している。また、自治会長や近所の方々にも声を掛けていく予定である。	事業所独自の災害対策マニュアルの作成、及び地域住民への声かけを行い、地域協力のもと、避難訓練が行える事に期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけは、いつもは大丈夫だが、問題行動BPSDの時にはイライラする事もあり、言葉かけの内容がきつくなるように思う。	声かけする時は苗字に「さん」付けを基本とし、同じ苗字の利用者にはフルネームで声かけている。子供扱いせず、利用者を人として尊重した上で対応している。外部の認知症に関する勉強会に職員を参加させることで、利用者の気持ちに立ち、理解が深められる様に取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	小さなことでも尋ね、利用者に合わせている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースや希望に、できるだけ沿うように努めている。出来ないこと、出来ないこともある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	パーマ・毛染め・化粧など、今までできなかったことをする人もおられ、服の話をしたり、おしゃれに関する認識がある。男性は髭剃りを。鏡を見る時間を作るようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	買い物に出かけたり、畑で収穫した物を食べるなど工夫している。	主食とみそ汁は事業所で作り、おかずは外部の厨房で調理されたものを事業所のキッチンで盛り付け、配膳している。土日の夕食は、職員手作りの自由メニューになっている。近所に畑があり、季節に応じた沢山の野菜が採れ、食にも彩りを添えている。おやつを近所の公園で食べたり、利用者と一緒にホットプレートで焼きそばやパンケーキ等を作って食べることもある。今後、外食も検討している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	回数を増やしたり、食事代替のものを家族と用意するなど、その人の状況に合わせて工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯磨きを毎食後、案内している。難しい方については仕上げ磨きを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	おしめの方は少なく、排泄はトイレに行っている。	『排泄は出来るだけトイレで！』をモットーに、居室にポータブルトイレを置かないで、残存能力を精一杯使った介助に取り組んでいる。その結果、退院後、おしめから布パンツへ移行したり、薬を使って便調整していた利用者が出来るだけ自力で歩いてトイレで排泄する事で、自然排泄が出来る様になった例もある。普段から排泄チェックを行い、職員全員で周知している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動・食べ物等、個々本人に合わせている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	気分や時間で個々に合わせ入浴している。曜日にこだわっておらず柔軟に対応している。	基本的に週2回、必要に応じて週3~4回の入浴支援を行っている。ペースの入浴曜日を決め、入浴時間は利用者のペースに合わせて、本人本位で対応している。夕食後に入る利用者もいる。また、1回ずつお湯を替えたり、声かけや入浴順序・時間を工夫することで、気持ち良く入浴できる様に取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活リズムで人それぞれ休息の時間を変え生活している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師と度々薬の大切さを話し、症状や薬の確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	手伝い・創作・歌・裁縫・散歩・畑と個々に合わせている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族と連携を図り外出できるようにしている。	近所の公園や畑に出かけたり、買い物や受診等で日々外出している。家族の協力のもと、外泊や外出、法事、墓参り等にも出掛けしている。誕生日には娘が迎えに来て、お寿司を食べに行く利用者もいる。また、ドライブがてら他の事業所へ行ったり、楽天キャンプや商店街の七夕飾りを見に行ったりしている。プランターの花の世話や植え替えなども行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	財布を持っている人もいて、安心に繋がっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話がかかってくることもあり、対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	落ち着いて居心地良い空間を作るよう工夫している。	『事業所は利用者の自宅である』という事を念頭に、壁に色々な物を貼る事はせず、手作りの日めくりカレンダーや季節の飾り等を、必要最小限におさえて掲示している。職員は毎朝、空気の入替えをしながら掃除し、空調管理も機械に頼らず、温度湿度計を小まめにチェックしながら、利用者が快適に過ごせるように工夫している。また、テーブルの席は固定せず、利用者のその時々々の気分でどこでも座れるように工夫している。テーブルには、利用者に合わせて高さ調整できる機能が付いている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居場所を工夫している。(メンバー・時間・その日により)		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人に関わる物を置き、落ち着いて過ごせるようにしている。	以前、自宅にあったこたつやテレビ等、馴染みのものを自宅と出来るだけ同じ配置にしたり、庭の写真や家族との連絡ノート等、必要な物は持参し活用している。居室の掃除は、基本的には職員が行っているが、利用者本人や家族も協力して綺麗に整理されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	今出来ること、今分かることで生活を工夫し力を発揮している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390201071		
法人名	社会福祉法人 薫風会		
事業所名	グループホームぬくもり(2階)		
所在地	倉敷市神田2丁目4-2		
自己評価作成日	平成27年10月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/33/1/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosyoCd=3390201071-008&PrefCd=33&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス		
所在地	岡山市北区岩井二丁目2-18		
訪問調査日	平成27年11月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者の生活を大切にし、時間や項目にとらわれなくて柔軟な対応に努めている。外に出かける機会を持つと共に、家族との関わりや外出・外泊の支援に取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は閑静な住宅街に位置し、近くには商業施設や協力病院も有り、安心して過ごせる環境になっている。建物の外観や内装は落ち着いた色合いにまとめられ、床には段差が無く利用者に配慮した作りとなっている。共有スペースの中央に配置されたキッチン、食事の用意の際、音や匂いを間近に感じられる様にと設置されたものであり工夫が感じられる。
 入所前には問題行動や不穏・便秘等で沢山の薬を必要とした利用者も、ホーム長や職員による利用者一人ひとりのその時の思いに合わせた柔軟なケアと時間の予定に縛られない対応により、信頼や安心を得て落ち着いて過ごす事が出来ている。また、2人介助を要しても極力自らの力で歩いてほしいと願う職員の日々の取り組みが、薬なしで自然排便に繋がる等、その人らしい生活を送ることが実現化している。
 ユニット間の連携が上手く取れる様、情報共有はもちろん必要に応じて職員を入れ替えている。結果、どの職員でも安心して家族に対応できる力が備わり、家族との信頼関係の構築に大きく役立っている。ホーム長は職員と隔月で面談を行い、休みの希望や勤務形態等の確認をしたり、スキルアップの機会を与えたり、個人的な相談を受けたりしながら、些細なストレスも職員にかからない様に配慮している。家庭的な雰囲気大切に、長く安心して暮らしていける事業所を目指している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を繰り返し伝え研修しているも徹底できていない。共有が難しい。	事業所のコンセプト「あたたかさ、ぬくもりを伝えよう」に沿って作成された理念を、各階のスタッフルームとエレベーター内へ掲示し、年度ごとに目標も立てている。今年の年間目標は「健康」である。普段から職員の目に付く様に工夫している。また、月に一度、理念を基に職業倫理や接遇等の研修を行い、職員全員で共有し、実践に活かしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩などを通じ交流できるようにしている。交流は少ない。	町内会には入会していないが、地元の自治会長や隣近所との関係は構築できている。事業所のすぐそばにある公園で近所の園児と交流したり、折り紙のボランティアが来たり、法人保有の学校から学生が実習に訪れたりしている。地域から好意的に迎えられている。	近隣との良い関係性を築くことが出来ているので、次は、幼保・小中学校等と交流が深められることに期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	活かせていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	活かしている。会議の中で取り入れられること、改善出来ることを取り組んでいる。	2か月に1度、奇数月に開催している。当事業所を含む法人内のグループホーム3社と市職員や地域包括支援センター職員・保育園・民生委員・愛育委員・協力病院看護部長・家族など毎回多くの参加者のもと行われている。家族が来訪した時には、会議内容等を報告している。また、地域の現状や行事予定等を教えてもらったり、ノロウイルスに対する予防策について話し合ったりしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加していただいている。	相談事で電話したり、申請等で出向いている。その際、沢山の指導を仰いでいる。運営推進会議にも必ず参加している。また、市から毎月2名の相談員が来て話しをしている。地域包括も含め、福祉事務所とも密に交流している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束しないように努めている。拘束と認識できていないこともある。	マニュアルを作成し、職員全員で周知している。今年の夏、スピーチロックや施錠・虐待を含めた研修を行った。日中、居室や各フロア共、施錠はせず、外出したい利用者がいれば職員が付いて外出している。防犯の為、夜間は施錠している。また、隔週で職員には、拘束や虐待について面談している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修を行いお互いに気を付けている。言葉かけが難しくできていない。徘徊の人には特に行動の中で、きつく言いやすい状況。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	なんとなく分かることもあるが、まだまだ学びが必要。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	不安のないよう安心してもらえるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来所時には職員と家族との関わりの時間を作り、話をする場を設けている。	家族が頻繁に来訪しており、その際、意見や要望を聞くことが多い。事業所の行事に参加したい・家族会を開いて欲しいなど要望をもらっており、家族会においては、今年の11月に開催することが決まっている。利用者からは、普段の会話の中から食べに行きたい場所等の要望を聞き取り、実践している。家族来訪時にはお茶を出す等、職員は家族と近い関係を保ち、家族中心で話をするように努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	どんなことをしたいか、どんなところが改善したいか、その都度話し合っている。	ホーム長は、隔月に職員一人ひとりと面談を行い、休みの希望や勤務形態等の確認・認知症に対するの対応・スキルアップ・個人的な相談まで受けている。行事についても提案を受けることが多く、先日は楽天キャンプの見学に行った。スキルアップでは法人内の病院や学校での研修に参加し、ホーム内で研修報告する等、職員が色々な経験を活かせる様に配慮している。	休憩時間をきちんと取る・時間外勤務をしない等、職員に対してストレスのかからない配慮がうかがえる。また、職員を大切にし、事業所運営する姿勢は素晴らしい、これからは是非続けてもらいたい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個別に話を聞くこともあり、言いやすい環境を作っている。みんな定時退社としている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	苦手なこと・対応など、研修を通し、また個別に指導してる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	なかなか交流は出ていない。検討が必要。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	落ち着いた関わりの中で、ゆったり時間をかけて関係づくりに励んでいる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族との関係を大切にし、小さなことでも耳を傾けるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	みんなで問題となることをはじめサービスについて家族との相談しながら対応を決めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家と同じように、寄り添いや関係づくりに取り組んでいる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	一緒に支えるようにチームの中に入って頂けるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	様々な場面で活かすこと、また活かすための声掛けや連絡・連携を取っている。	家族や知人・友人・兄弟・孫・元担当ケアマネジャー等、頻繁に来訪している。正月には自宅へ一時帰宅する利用者が半数近くおり、大変協力的である。馴染みという点では、息子さんの営むコーヒーショップへ出掛ける利用者もいる。常々、来訪者には継続支援のために声かけしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	席を決めず自由にしてもらうことで、どの人も関わられるよう工夫している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	まだないので分からない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の想いを尊重している。	入居前のアセスメントをもとに現状と比較しながら、利用者本人の思いを把握している。共有空間の席は、その日の気分によって利用者本人に任せている。また、どの利用者に対しても、一日の流れにとらわれすぎず無理をしないケアに取り組んでおり、良い信頼関係を築けている。	外に出たい時にはついて行き、今入浴したくないという時は時間や日を改める等、利用者は自由に過ごしている。その時々意思を尊重することで、寄り添う姿勢が伝わり、落ち着いた日々を過ごす事に繋がっているとされる。とても素晴らしい取り組みなので、これからもこのまま無理をしない努力を続けて頂きたいと思います。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族から家での様子を教えてもらうなどすることが多い。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	現状に合わせてその人の生活リズムを活かせるようにしている。時間の枠やすることを決めていない。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	作成できているが話し合いが不十分。	各担当職員が情報収集し、月1回のフロア会議で話し合っている。計画作成と管理者で原案を作成し、家族や医師の意見や要望も組み込みながらプランを作成している。モニタリングは必要に応じて毎日・1ヶ月単位で記録を取っている。また、家族にアンケートを行い、希望や要望(夜はパジャマに着替える、外を歩かせて欲しい、下肢訓練して欲しい等)を把握し、プランに盛り込んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々、その都度話し合えてよい。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	柔軟な対応ができています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	協働までできていない。地域の方とは交流するようにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	必要時にはいつでも連携が取れる。	入居の際、かかりつけ医から事業所の協力病院に変わる利用者が多く、現在かかりつけ医に受診している利用者はほとんどいない。協力病院とは24時間体制で連携を取っており、週2回の訪問診療がある。看護師も配置しており、早めの対応に努めている。受診は、家族やホーム長、看護師が付き添い、対応している。歯科受診は入れ歯の調整で行くことはあるが現在は無い。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師に相談したり、教えてもらうことも多い。早めの受診の対応を心がけ一緒に対応できる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	連絡を取りながら、状況に合わせている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	説明している。実際にはまだ取り組んだ例がない。	入居時に重度化した場合の指針を説明しており、事業所の方針に理解を得ている。現在の所、医療行為が発生すれば、ホームでは看取らない方針である。年1回、終末期の勉強を行っており、新人職員にはその都度、説明している。緊急時の対応マニュアルは用意している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	繰り返し行っているが、実践時に慌てて上手くいかないこともある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルの整備が必要。	法人全体の災害マニュアルはあるが、事業所独自のものは無い。今年は、通報装置や消火器の使い方を勉強したほか、避難訓練を1度行った。来年からは年2回消防署と連携して、昼夜を想定した避難訓練を予定している。また、自治会長や近所の方々にも声を掛けていく予定である。	事業所独自の災害対策マニュアルの作成、及び地域住民への声かけを行い、地域協力のもと、避難訓練が行える事に期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけは、いつもは大丈夫だが、問題行動BPSDの時にはイライラする事もあり、言葉かけの内容がきつくなるように思う。	声かけする時は苗字に「さん」付けを基本とし、同じ苗字の利用者にはフルネームで声かけている。子供扱いせず、利用者を人として尊重した上で対応している。外部の認知症に関する勉強会に職員を参加させることで、利用者の気持ちに立ち、理解が深められる様に取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	小さなことでも尋ね、利用者に合わせているようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースや希望に、できるだけ沿うように努めている。出来ていないこと、出来ないこともある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	パーマ・毛染め・化粧など、今までできなかったことをする人もおられ、服の話をしたり、おしゃれに関する認識がある。男性は髭剃りを。鏡を見る時間を作るようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	買い物に出かけたり、畑で収穫した物を食べるなど工夫している。	主食とみそ汁は事業所で作り、おかずは外部の厨房で調理されたものを事業所のキッチンで盛り付け、配膳している。土日の夕食は、職員手作りの自由メニューになっている。近所に畑があり、季節に応じた沢山の野菜が採れ、食にも彩りを添えている。おやつを近所の公園で食べたり、利用者と一緒にホットプレートで焼きそばやパンケーキ等を作って食べることもある。今後、外食も検討している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	回数を増やしたり、食事代替のものを家族と用意するなど、その人の状況に合わせ工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯磨きを毎食後、案内している。難しい方については仕上げ磨きを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	おしめの方は少なく、排泄はトイレに行っている。	『排泄は出来るだけトイレで！』をモットーに、居室にポータブルトイレを置かないで、残存能力を精一杯使った介助に取り組んでいる。その結果、退院後、おしめから布パンツへ移行したり、薬を使って便調整していた利用者が出来るだけ自力で歩いてトイレで排泄する事で、自然排泄が出来る様になった例もある。普段から排泄チェックを行い、職員全員で周知している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動・食べ物等、個々本人に合わせている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	気分や時間で個々に合わせ入浴している。曜日にこだわっておらず柔軟に対応している。	基本的に週2回、必要に応じて週3～4回の入浴支援を行っている。ペースの入浴曜日を決め、入浴時間は利用者のペースに合わせて、本人本位で対応している。夕食後に入る利用者もいる。また、1回ずつお湯を替えたり、声かけや入浴順序・時間を工夫することで、気持ち良く入浴できる様に取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活リズムで人それぞれ休息の時間を変え生活している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師と度々薬の大切さを話し、症状や薬の確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	手伝い・創作・歌・裁縫・散歩・畑と個々に合わせている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族と連携を図り外出できるようにしている。	近所の公園や畑に出かけたり、買い物や受診等で日々外出している。家族の協力のもと、外泊や外出、法事、墓参り等にも出掛けている。誕生日には娘が迎えに来て、お寿司を食べに行く利用者もいる。また、ドライブがてら他の事業所へ行ったり、楽天キャンプや商店街の七夕飾りを見に行ったりしている。プランターの花の世話や植え替えなども行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	財布を持っている人もいて、安心に繋がっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話がかかってくることもあり、対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	落ち着いて居心地良い空間を作るよう工夫している。	『事業所は利用者の自宅である』という事を念頭に、壁に色々な物を貼る事はせず、手作りの日めくりカレンダーや季節の飾り等を、必要最小限におさえて掲示している。職員は毎朝、空気の入れ替えをしながら掃除し、空調管理も機械に頼らず、温度湿度計を小まめにチェックしながら、利用者が快適に過ごせるように工夫している。また、テーブルの席は固定せず、利用者のその時々でどこでも座れるように工夫している。テーブルには、利用者に合わせて高さ調整できる機能が付いている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居場所を工夫している。（メンバー・時間・その日により）		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人に関わる物を置き、落ち着いて過ごせるようにしている。	以前、自宅にあったこたつやテレビ等、馴染みのものを自宅と出来るだけ同じ配置にしたり、庭の写真や家族との連絡ノート等、必要な物は持参し活用している。居室の掃除は、基本的には職員が行っているが、利用者本人や家族も協力して綺麗に整理されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	今出来ること、今分かることで生活を工夫し力を発揮している。		